

## 1 研究主題

### 対話を通して自ら考え、主体的に学ぶ幼児・児童の育成

～10の姿をふまえた幼小連携の指導の工夫～

## 2 主題設定の理由

幼児・児童は幼稚園・学校での様々な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、自立した人間として生きていくための基礎を培っている。

本園・本校の学区域は、高層集合住宅に転入してきた住民が多いため、地域社会での交流活動の機会が少なく、家庭でも共働きや習い事などで家族と関わる時間が幼少期から少ないなどの幼児・児童もいる。それゆえ、小学校入学後、休み時間には1人で過ごすなど友達との関わりが不得手な児童もいる。

この研究に先立ち、学年ごとの分科会を作り、本園・本校の幼児・児童の実態や課題、それに対する解決策の検討を行った。すると「指示待ちである」「自己肯定感が低い」「言葉で表現することが難しい」といった実態や課題、そして「失敗を恐れずに経験を積ませたい」「結果だけではなく過程を評価する」などの方策が、どの学年でも共通していることが分かってきた。

これらの課題を解決していくためには、学校生活の様々な場面で基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して必要な思考力、判断力、表現力等を育むことが大切であると考えた。そこで、幼稚園・学校生活の様々な場面で対話的な活動を重視し、主体的に行動できるようにしていくことで、個性を生かし多様な人々との協同を促す教育の充実に努めることとした。

本校の研究主題である「対話を通して自ら考え、主体的に学ぶ幼児・児童の育成」は、幼小9年間を通して、対話的な学びを重視し、主体的に学んだことを日常生活に活用できる幼児・児童の育成を目指す教育である。

その実現に向け、学びの芽生え期から自覚的な学び期まで一貫した活動を意図的・計画的に設定した。その上で、対話を通して、他者との考え方の違いや良さに気付くことのできる学び合いを積み重ねていくことで、主体的に学ぶ幼児・児童が育つであろうと考え、本主題を設定した。